


\* 注意 これは問題用紙です。解答用紙は別にあります。解答は必ず解答用紙に書きなさい。  
終了時間がきたら、解答用紙を裏返しにして室外へ出なさい。


〔問題Ⅰ〕次の文章を読んで、問いに答えなさい。なお、本文中には仮名づかいなど、一部表記をあらためた部分がある。

## 著作権の関係で問題文は掲載できません

\*鉛筆やコンテなどでぼかしの技法を使って描かれた絵画。デッサン画。

（志賀直哉『或る朝』より）

問一、 a s e の漢字は読みに、カタカナは漢字に直しなさい。

問二、 の空欄に当てはまる語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 目を覚ました      イ 横になっていた      ウ 腹を立てた      エ 眠り込んだ

問三、——①「明日坊さんのおいでなさるのは八時半ですぞ」という祖母の言葉に続くと思われる語句を、本文中から十四字で抜き出しなさい。

（句読点や「」を除く）

問四、——②祖母「驚かすまいと耳のわきで静かに言っている」・⑤信太郎「今にも起きそうな様子をして見せた」とあるが、その後それぞれどう変わったか。次からそれぞれ適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 今度は返事をしなかった      イ 今度は角のある声だ

ウ 度胸を据えて起きるといふ様子もなかった      エ のびをして見せた

問五、——③「帰るように」とはどこに帰るのか。適当なものを、次から選び記号で書きなさい。

ア 部屋      イ 眠り      ウ 床の間      エ 怒り

問六、——④「気休めに」について、誰が誰に対しての気休めなのか。適当なものを、次から選び記号で書きなさい。

ア 祖母が坊さんに対して      イ 祖母が信太郎に対して      ウ 信太郎が祖父に対して      エ 信太郎が祖母に対して

問七、——⑥「あまのじゃく」（人の言うことに対しわざと逆らうひねくれ者）であることを表す信太郎の心情を表す一文を、本文中から三十七字で抜き出し、最初と最後の五字ずつを書きなさい。

〔問題二〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

## 著作権の関係で問題文は掲載できません

〔齋藤慶典『中学生の君におくる哲学』より〕

問一、……aとeの漢字は読み、カタカナは漢字に直しなさい。

問二、(A)と(C)に入る適語を次から選び、記号で答えなさい。

ア 例えば イ でも ウ もちろん エ まして オ つまり

問三、**一**と**二**に入る語を本文中から抜き出しなさい。

問四、**一**「本」とはどのようなものと言っているか。本文中から三十六字で抜き出しなさい。

問五、**二**「それは私たちが人間であることと切っても切れない存在」と筆者が考える理由は何か。説明しなさい。

問六、**三**「書き言葉というものがなきやならない」といえる理由は何か。文中の言葉を使って説明しなさい。

問七、次の中から、本文と合致しないものを三つ選び、記号で答えなさい。

- ア 犬や猫は人にはわからない言語を話す。  
イ 伝えるのに適しているのは、書き言葉だ。  
ウ イルカやある種のサルたちは、人間に劣らない高度な言語を持っている。  
エ 話し言葉は、書き言葉と違い、その時の思いを込めて表現することができる。  
オ 自分が書いた言葉を読むことで、自分自身と向き合うことができる。

〔問題三〕次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ひさしぶりに蛍を見た。家のすぐそばの沢のほとりでは、毎年のようにたくさんの蛍を見ることができたのだが、いつのころからか数が少なくなり、この二、三年はまったく見ることが**①**なかった。もはや、なにかの理由で絶滅してしまったのかと思っていたが、どっこいそうではなかった。村の蛍は数こそ少ないが、**A**生きつづけていた。

**②**ふと外に出て沢に近づくと、**B**光の線が川面を横切った。  
「あ」と弾む声を出していた。

雨上がりの曇り空だったが、闇は意外に濃く、足元が見えないほどだった。だからだろう。一匹の蛍の光が、強く**C**闇に浮かんた。やがて三匹、四匹の蛍が宙に舞い、恋の明滅を繰り返す。わずかな数だが、その明滅のさまは、ひどくはなやかなものを沢の流れに**③**ふりまいている。はかなさを土台にしているからこそ、心に残るのだろうか。「夏は、夜……蛍の多く飛びちがひたる。」という**④**清少納言の書いた一節を思い出す。  
**⑤**見上げると、柏の木のかなり上のほうまで舞い上がっている蛍もいる。星が見えた。星を見、蛍を見、いつまでも立ちつづけていた。

問一、**A**と**C**にあてはまる言葉を、次から選び記号で答えなさい。

ア くつきりと イ すいと ウ ぼんやりと エ しつかりと

問二、……あ「絶滅」、い「明滅」の熟語の構成は、次のどれにあたるか。それぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 上の字が下の字を修飾しているもの イ 下の字が上の字の目的語・補語になっているもの

ウ 同じような意味の漢字を重ねたもの エ 反対または対応の意味を表す字を重ねたもの

問三、**一**「なかった」と**③**「ふりまいている」は述語である。それぞれの主語を本文中より抜き出しなさい。

問四、**二**で「ふと外に出」た時について

(1) 季節はいつか。次から選び、記号で答えなさい。 ア 春 イ 夏 ウ 秋 エ 冬

(2) 時刻は何時頃か。次から選び、記号で答えなさい。

ア 午前九時 イ 午後一時 ウ 午後四時 エ 午後九時

問五、**四**「清少納言の書いた」作品を、次から選び記号で答えなさい。

ア 源氏物語 イ 徒然草 ウ 方丈記 エ 十六夜日記 オ 枕草子

問六、**一**の文のaとcの品詞をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

見上げる a と、柏の木のかなり上の b ほうまで c 舞い上がっている蛍もいる。

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞 エ 副詞 オ 助動詞 カ 助詞